

今年度第6回目となる外国語活動・外国語の研究授業を 深谷久美 教諭が行いました。新型コロナウイルス感染症対策をとりながら絵本を使った授業を教室で行いました。協議会では、絵本の活用方法や絵本を用いて英語の表現に慣れ親しみながら楽しく学習に取り組む工夫について意見交流を行いました。

指導・講評では、京都光華女子大学 こども教育学部 こども教育学科 教授 田縁 真弓先生をお招きして、ご指導をいただきました。

## 研究主題

関わり合い、学びを広げ、深める児童の育成

～思いを豊かに表現できる授業づくりを通して～

授業者:2年2組 深谷久美 教諭

単元名:Takoyaki Boy

指導講評:京都光華女子大学 こども教育学部 こども教育学科 教授 田縁 真弓先生より



### 〈研究経過報告〉

低学年分科会では、英語の歌や絵本を通して、「英語のリズムや音声に慣れ親しむこと」「外国語の表現を積極的に使い楽しく取り組むこと」「友達と意見や考えを伝え合うこと」をねらいとして、以下の3つの視点で授業の工夫を行った。

#### ① 振り返りカードの工夫

振り返りカードでは、到達目標に向けた足場や挑戦的な段階を段階化した4段階からなる Can-Do 尺度を児童にわかりやすい形で提示し、振り返りを行った。毎時間確認し、自己評価の低い児童には前向きな声掛けを行うようにし、児童の意欲を高めた。

#### ② 絵本を使った目的・場面・状況等を明確にした言語活動の工夫

本単元では、京都光華女子大学こども教育学部こども教育学科教授である田縁真弓先生に紹介していただいた絵本「Takoyaki Boy」を使って学習を進める。「Takoyaki Boy」は、昔話をオマージュした作品で、児童がお話の展開を容易に想像できるように構成されている。

#### ③ 表現を繰り返し使うための工夫

「Takoyaki Boy」は、同じ表現が繰り返し出てくるように作られており、読み聞かせをするときに、教師が児童と一緒に発話するように促しながら進めることで、自然と何度も口にするようになる。また単元の終わりに劇活動を取り入れることで、楽しみながら繰り返し表現を使うことになるように工夫した。

### 〈授業者自評〉

本単元では、毎時間児童が意欲的に取り組んできたので、本時に至るまでに「Takoyaki Boy」に出てくるフレーズをたくさん発話できるようになった。それゆえに、本時で繰り返し読み聞かせを行ったことがかえって児童を飽きさせる結果となってしまったことが課題である。お話の順番を考える場面では、場面の順番が揃ってから各場面の表現を一緒に声に出して確認するよりは、場面ごとに確認した方がより効果的だったかもしれない。次時から、最終活動である「劇活動」に向かって、指導していきたい。

## 〈研究協議会〉

### 研究の視点について

#### **視点1 「Takoyaki boy」の読み聞かせにおいて、教師と一緒に発話しようとしていたか。**

- ・外国語活動の経験の少ない2年生だが、とてもよく絵本に親しんでいた。ただし、途中で飽きてしまう児童もいたので、いかに飽きさせずに集中して取り組めるようにするのが課題である。読み聞かせのときは、リズムを意識するとよいのではないか。
- ⇒途中で児童が飽きてしまったとき、切り替えようと試みたが、アドバイザーとうまく連携が取れなかった。アドバイザーと事前にきちんと打ち合わせをして意思疎通をとることの大切さが改めて分かった。
- ・児童が「Wow!」など自然と英語を使っているのがとてもよい。絵本を使った授業が国語の授業の流れに似ている。ふだんの授業と変わらない流れなので抵抗感なく外国語の授業を受けられるのだと思う。
- ・児童がとてもよく発話していたが、教師のかけ声「1、2」も一緒に発話していた。
- ・本時の授業では、「教師 対 児童」という1対1のやりとりだけだったが、ペアワークなどを取り入れなかった理由はあるのか。
- ⇒2年生の発達段階を考慮して少しずつ英語の表現に慣れさせていくために、本時まではクラス全体で取り組み、次時から班活動を取り入れるという流れで計画を立てた。

#### **視点2 お話の並べ替え活動は、児童が外国語に慣れ親しむ活動として適切であったか。**

- ・お話の並べ替え活動は、慣れ親しむ活動として適切であった。
  - ・登場人物などをていねいにおさえながら進めていたのがとてもよかった。ただし、もう少し場面のカードが少なくてもよかったかもしれない。
- 〔質問〕**並べ替え活動を行った意図は？
- ⇒お話の並べ替えをしながら繰り返し発話して表現に慣れ親しめるようにしたが、場面のカード1つごとに表現を声に出して確認した方が思考が働いてよかったかもしれない。

〈指導・講評〉京都光華女子大学 こども教育学部 こども教育学科 教授 田縁 真弓先生

#### **【本時の授業について】**

- ・2年生がよくここまでできると感心した。すでに絵本のセリフが頭に入っているのでレベルアップをして、もっと思考させるとよい。絵本は場面を映像化することができるので、2年生でも場面をイメージしやすい。
- ・本時で行った「場面ならび替え活動」の目的は①発話させるため②もう1度表現を聞かせるためである。
- ・絵本は「自分」とどれだけ関連性があるかが大切である。
- ・英語の絵本は、国語の世界に似ている。低学年はまだ世界がせまいので、絵本の世界に引き込み、想像力を膨らませることが大切である。
- ・もっと教師が臨機応変に授業を行うとよい。最終活動では「劇化する」という「目的」を子供にしっかりと伝え、活動に必然性をもたせる。班活動を取り入れて、自分が役になりきれる場面を増やしていく。

#### **【LBS 指導モデルについて】** (LBS=Learning by story telling)

- ・小学校英語教育学会 JES 課題研究をスタートに2018年より研究されてきた英語絵本の読み聞かせに始まる4技能統合的に英語のコミュニケーション力をつけるとともに、読み書きのリテラシーを高める指導のことである。
- ・小学校での絵本の読み聞かせの効果が高い。英語能力がまだ十分でなくてもイラストと文脈が助ける英語学習。しかし効果があるとわかっているにもかかわらずなかなか広まっていないのが現状である。理由としては、どのように活用するのか、どのように読めばいいのかわからないなどが挙げられる。
- ・ただ読み聞かせるだけでは十分ではない。絵本の読み聞かせを効果的に行う指導法が必要である。それがLBS指導である。
- ・基本の活動
  - ①教師とのインタラクションを交えながらの絵本読み聞かせ
  - ②内容についてのクイズや絵本の場面の並べ替え
  - ③絵本の内容・セリフの確認
  - ④発信活動(劇化活動)
- ・絵本の読み聞かせの仕方
  - ①指導者はジェスチャーをつけ表情豊かに読むようにする。
  - ②単に絵本に載っている文言をそのまま読むのではなく、児童に絵本の絵や筋について時折質問をしながら、児童を絵本の世界に引き込むようにする。
  - ③ページをめくる際には、次に何が起こると思うかなど発問し、児童に次の話の展開に興味を持たせる。

※最後は、「Toto's Story」や「Mac the cat」「Change one letter!」を教師が児童になったつもりで読み、絵本の内容を「自分」と関連付けることやリズムよく読むことの大切さを学びました。